令和８年度「障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業」大津地域
第 79 回大津市文化祭オープニングセレモニー特別発表
「劇団まちプロ一座　オリジナル作品『バリアフリー探偵こてつ』と手話歌の公演＆座談会」

障害の有無にかかわらず、誰もが自分らしく文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進する、滋賀県「障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業」の一環として実施。
令和３年度から県内市町と連携して企画を実施しており、大津市では今年で３年目。過去２年に実施した単発イベント開催から一歩進めて既存の地域文化行事（第 79 回大津市文化祭オープニングセレモニー）へ参画。地域一体となった環境づくりを目指した。

【概要】
第 79 回大津市文化祭オープニングセレモニーの特別発表として、劇団まちプロ一座（以下まちプロ）による演劇上演と、座談会を実施。
・実施日　令和８年９月 19 日（土）
・会場　大津市生涯学習センター　４階視聴覚室
・内容　演劇「バリアフリー探偵こてつ」および手話歌の上演、座談会の３部構成
・司会・ファシリテーター　NPO 法人 BRAH=art.　岩原勇気氏
・受付対応等　NPO 法人子育て研究会（北山氏、山口氏）

まちプロは、社会福祉法人共生シンフォニーが運営する生活介護事業所「まちかどプロジェクト」の利用者（当事者）とスタッフで構成する劇団として 2003 年に結成。
現在 15 人（うち当事者 10 人）の一座として、当事者の日常を描いたオリジナル作品を市内外で上演。人権学習などの場に招かれることが多く、本セレモニーでの公演は今回が初となった。

【事前調整】
事前の現地打合せにおいて、大津市、まちプロとで会場レイアウト、多目的トイレ位置ほか、鑑賞席のうち車椅子ユーザーのスペース確保や導線を確認

【情報保障の取組】
・受付にて、ヘッドホンや台本を用意し、必要な来場者に配布
・車椅子席の確保

【当日】
来場者：公演　21 名、座談会　10 名
（劇団への関心をきっかけとした人のほか、手話歌への関心層、子ども連れの家族や乳児連れの夫婦など多様な層が参加）



＜写真＞会場受付の様子。
必要な人に届くよう情報保障を用意



＜写真＞上演の様子



＜写真＞座談会。まちプロと鑑賞者がそれぞれの思いや考えを交換

座談会　テーマ「表現活動を続けるにはどうしたらいいの？　まちプロ一座と話してみよう」
最初に、まちプロ団員（７名）が、表現活動への思いについて各自発表。
・当初は人前に出ることの苦手意識を克服するために演劇を始めた。
・演劇を通じて自分たちの思いを伝えることが生きがいになっている。
・演者としての継続が難しくなった人を含め、紙芝居や音楽、手話歌、車椅子でリズムを取る活動など、多様な表現を通じて参画している。

これを受けて、参加者の感想や今後への期待、地域社会における課題などが伝えられた。
・地域のなかで日常的に共に過ごす環境や、車椅子利用者が外出しやすい意識づくり、双方向の対話を生み出す表現の重要性

＜イベントを終えてのコメント＞
まちプロ座長　小石哲也氏
「自分たちの上演への想いを伝え、また来場者のみなさんの声を聞き、やりとりができる機会が生まれありがたかった。」
まちかどプロジェクト所長　上田芳雄氏
「まちプロは当事者が主体者であることを目指してきました。当時者それぞれの想いを伝えたいという気持ちが活動の原動力になっています。表現活動を続けていくにあたっては、我々単一の事業者としての活動としてだけではなく、様々な団体や組織と関わっていくことがより積極的な発信につながっていくのではないかと期待しています。」

【総括】
地域文化の象徴である文化祭のなかで当事者主体の表現を届けたこと、また座談会を通じて鑑賞側と双方向の対話を生み出した点に大きな意義があった。
「誰もが自分らしく文化芸術活動に参加・表現できる環境づくり」を、今一度見直し、そのために何が必要かを考えていくきっかけが生まれた。